

ご当地検定の利活用と課題

【目 次】

はじめに	3. 長崎県内の事例
I. ご当地検定とは	III. 利活用と課題
II. 全国に広がるご当地検定	1. ご当地検定の課題
1. 全国の主なご当地検定	2. 長崎検定の利活用に向けて
2. 代表的な事例	おわりに

はじめに

近年、地域活性化策の一つとして『ご当地検定』が各地で活発に行われている。2003年に東京都で行われた「東京シティガイド検定」を皮切りに、兵庫県明石市の「明石・タコ検定」や佐賀県唐津市の「唐津・呼子イカ検定」のような、地域ブランドそのものを検定名に掲げて実施されているものもあり、地域色豊かなご当地検定が全国各地に次々と誕生してきた。しかしながら、その一方では休止に追い込まれる事例も出てきており、その淘汰も徐々に始まっている。

そこで、本稿では全国の主なご当地検定を紹介するとともに、長崎市で行われているご当地検定「長崎歴史文化観光検定」を中心に、その利活用や課題についてとりまとめた。

I. ご当地検定とは

ご当地検定とは、特定の地域における歴史や自然、文化や産業、慣習などといったことについての知識を問う試験であり、商工会議所や観光協会、自治体などといった地元組織が中心となって運営している。これには独自の試験対策セミナーやテキストが準備されており、またその受験資格に関する規定等は特にないものが多い。

ご当地検定は、2004年に京都商工会議所が主催する「京都・観光文化検定試験」が第1回目の試験で1万人近くの受験者を集めたことがきっかけとなり、地域住民に観光客へのおもてなしの心を深めてもらうなどといった人材育成の手法として、また、全国に向けて地域をアピールするという地域振興の手法として注目されるようになった。

この試験が全国に万遍なく広がった背景としては、地域住民が他の資格試験と異なり気軽に受

験できることに加え、その内容も自分達が生まれ育ったところ、あるいは普段生活しているところをもっとよく知りたいという知識欲に応えるものであったのと同時に、試験を主催する商工会議所や自治体にとっても、住民に地域についての見識を深めてもらうことで地域愛が芽生え、地域力の向上が住民レベルで期待できるという、住民と主催者側の欲求がうまくマッチしたことが挙げられる。

Ⅱ. 全国に広がるご当地検定

現在、全国で多数のご当地検定が行われているが、2009年3月現在でその数は既に160を超えるまでになっている（（財）地域活性化センター調べ）。以下では、そのなかから主なものを紹介する。

1. 全国の主なご当地検定

ご当地検定は概ね3つのパターンに分けられる。まず、「北海道フードマイスター検定」のような食材について理解を深める人材を育てるものや「九州観光マスター検定」のように観光産業を支える人材を育てるものなど、地元根付いた観光関連人材の育成を目的とする試験（図表1）。2つ目は「金沢検定」のように金沢のブランド力を更に高めるため、また「かごしま検定」のように多くの人々に鹿児島へ関心を持ってもらうことを目的とするその地域全体をアピールする試験（図表2）。そして3つ目が「長崎歴史文化観光検定」のようにその両方を目的とする試験である（図表3）。

図表1 人材育成を主目的とする試験

検 定 名	所在地	実施団体	開始年月	開催数 (回)	受験者数計 (人) (1回当たり)	内 容 ・ 特 徴
北海道フードマイスター検定	北海道 札幌市	札幌商工会議所	2005年12月	8	5,781 (723)	北海道で収穫される食材や食文化についての理解を深める。合格者で開業希望者には商工会から資金などについて支援制度あり。
札幌シティガイド検定試験	北海道 札幌市	札幌商工会議所	2004年10月	11	2,843 (258)	札幌の魅力を自信持って案内できる人材の育成を目指す。
おたる案内人検定試験	北海道 小樽市	小樽観光大学校	2007年1月	5	424 (85)	産学官による、小樽に誇りを抱く市民や産業人の育成。
東京シティガイド検定	東京都 文京区	(財)東京観光財団	2003年11月	6	3,948 (658)	元祖ご当地検定。合格者はNPO法人「東京シティガイドクラブ」に所属し、自主活動を展開中。
九州観光マスター検定	福岡県 福岡市	福岡商工会議所	2005年10月	8	5,911 (739)	観光産業の振興、発展につながる人材育成を支援。

資料：（財）地域活性化センターの調査報告書、また、各検定実施団体への聞き取り、及びHPを基に当研究所にて作成

図表2 地域のアピールが主目的の試験

検 定 名	所在地	実施団体	開始年月	開催数 (回)	受験者数計 (人) (1回当たり)	内 容 ・ 特 徴
宮城マスター検定	宮城県 仙台市	宮城県	2007年11月	3	12,475 (4,158)	行政が運営する受験料無料の試験。 2級と3級の試験については、 WEBか郵送による自宅での受験が 期間中いつでも可能。
江戸文化歴史検定	東京都 千代田区	江戸文化歴史検定 協会	2006年11月	3	26,441 (8,814)	日本の生活様式や社会秩序が成熟期 を迎えていた江戸文化を学び、未来 に役立てる。
金沢検定	石川県 金沢市	(社)金沢経済同友 会	2005年11月	4	11,213 (2,803)	北陸初のご当地検定。難易度も高く、 ボランティアガイドの間では合格す ることがステイタスとなっている。
京都・観光文化検定試 験	京都府 京都市	京都商工会議所	2004年12月	5	47,937 (9,587)	京都に関する歴史、文化、産業、暮 らしなどを学ぶ一番人気の試験。
明石・タコ検定	兵庫県 明石市	明石・タコ検定委 員会	2006年3月	4	1,578 (394)	明石で獲れる魚(タコ、鯛、あなご 等)を知ってもらうための検定。ス テップアップした“おさかな達人” 試験も予定されている。
唐津・呼子イカ検定	佐賀県 唐津市	唐津・呼子イカ検 定実行委員会	2007年2月	3	582 (194)	“呼子のイカ”を核とした検定。市 内のホテルや旅館、イカ料理店にて 合格者は認定バッヂを付けている。
かごしま検定	鹿児島県 鹿児島市	鹿児島商工会議所	2006年4月	7	4,363 (623)	まずはマスター(初級)から。マス ター合格者はシニアマスター(中級) を受検、これに合格するとグランド マスター(最上級)に挑戦。

資料:「図表1」に同じ

図表3 地域のアピールとともに人材の育成をも目指す試験

検 定 名	所在地	実施団体	開始年月	開催数 (回)	受験者数計 (人) (1回当たり)	内 容 ・ 特 徴
岡山文化観光検定試験	岡山県 岡山市	岡山商工会議所	2005年12月	4	3,321 (830)	岡山の歴史や自然、文化などについ ての知識を学んでいたが、その知 識を観光関係などの仕事に活かす。
長崎歴史文化観光検定	長崎県 長崎市	長崎商工会議所	2006年3月	4	3,916 (979)	長崎市を中心とした歴史や文化、観 光などに関する知識の取得を目指す。
熊本・観光文化検定	熊本県 熊本市	熊本商工会議所	2007年2月	5	約6,000 (1,200)	県民を中心に地元の魅力を学び、観 光客へのおもてなしに役立てること を目指す。

資料:「図表1、2」に同じ

2. 代表的な事例

(1) 京都・観光文化検定試験(通称:京都検定)

2004年にスタートした京都検定は、2008年までの5回の試験で総受験者数が約4万8千人(推移はグラフ1参照)と、圧倒的な人気を集めているご当地検定である。受験者の約半数が京都府外からの受験となっており、改めて“京都”というブランド力の強さが証明された形となった。試験のレベルは、専門的知識が問われる1級を頂点に3級までの3つに分かれており、2005年の第2回試験から4回実施されている1級は、受験者数

京都検定 京都観光文化検定試験

第5回 京都検定 PRチラシ

(資料提供: 京都商工会議所)

3,543人に対し合格者は375人と、合格率が10.6%という難易度を誇っている。

京都検定は、受験者が単に多い試験というだけではなく、その運営方法が魅力あるものとして他のご当地検定の見本となっている。例えば、他地域のご当地検定にも用意されている試験対策用公式テキストブックの作成や事前講習会の開催などに加え、通信講座やWEBでの受験対策ドリル、また地元の大学における短期集中講座の開講といったものまで用意されている。

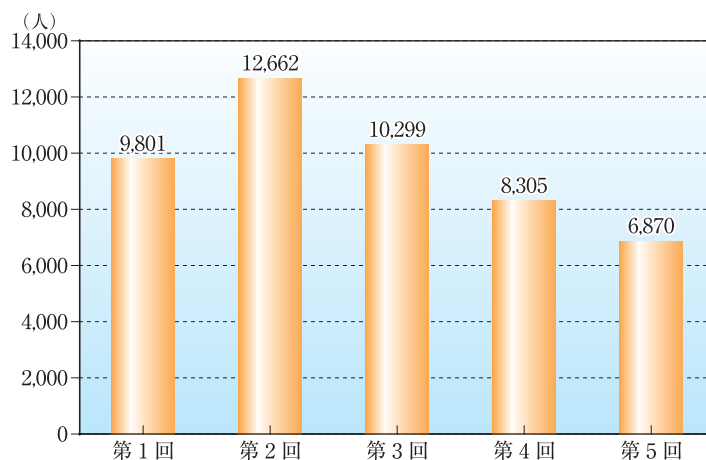
また合格者に対しては、観光関連施設の優待利用に加えブラッシュアップ研修（事後研修）を充実させており、そのアフターフォローも怠りない。更に他の検定試験にはみられないものとして、1級合格者のなかから希望者を募り選考を経て合格した人は、1年間の期限付きながら京都産業大学の特別研究員の資格が与えられ、その研究成果を発表することができるなど、受験意欲を掻き立てるような様々な仕掛けが盛りだくさんに用意されている。

（2）江戸文化歴史検定

西の京都検定と並ぶ東のご当地検定として有名なのが江戸文化歴史検定である。2006年に実施された第1回検定試験の受験者数は、京都検定の1回目を凌ぐ10,528人を数え、これまでに実施された3回の試験で合計受験者数が2万6千人超（推移はグラフ2参照）と人気を集めている。

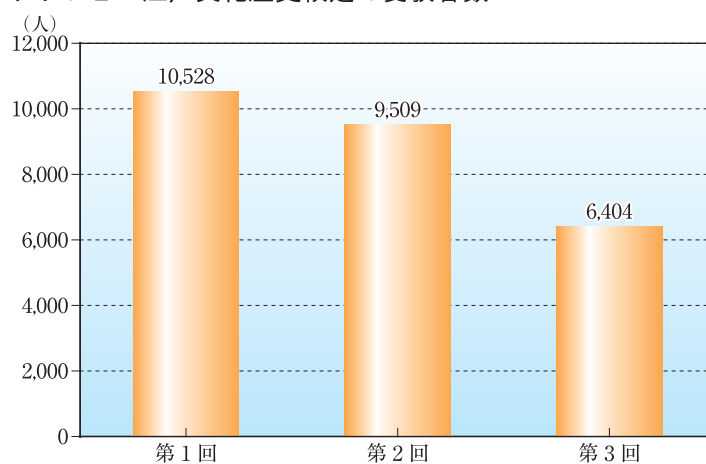
その運営方法としては、公式テキストの発刊や講習会の開催などに加え、受験者を対象とする現地講座もあり、また、2級以上の合格者はANA（全日空）の現地観光ガイドの応募資格も得られるなど、京都検定と同様、受験者を飽きさせない仕掛けが用意されているご当地検定である。

グラフ1 京都検定の受験者数



資料：京都商工会議所のHPを基に当研究所にて作成

グラフ2 江戸文化歴史検定の受験者数



資料：江戸文化歴史検定協会のHPを基に当研究所にて作成

3. 長崎県内の事例

(1) 長崎歴史文化観光検定（通称：長崎検定）

2006年から京都検定を参考として行われているのが、長崎商工会議所が運営する長崎歴史文化観光検定である。元々は同年開催された日本初のまちあるき博覧会「長崎さるく博'06」の観光ボランティアガイドの育成に合わせて始まったものであり、京都・岡山の両検定とともに全国でも数少ない黒字運営が行われているご当地検定である。

本検定は、長崎の歴史・文化を学ぶ機会を提供するとともに、市民の観光に対する意識とホスピタリティを高め、併せて観光ガイドの育成を図り、長崎が持つブランド力を強化することを目的にしており、市民と地元観光関連業者のレベルアップに寄与することを目指している。

試験レベルは、過去の平均合格率が約85%という初心者レベルの3級からその平均合格率が僅か5%弱という最難関の1級までの3段階が用意されており、また、2級試験に合格しないと1級試験への挑戦権を得ることができない。

受験対策用テキストについては、これまでも歴史・文化などについて長崎を紹介してきた書籍類は数多くあったものの、これに自然や風俗、観光などを加えて「長崎学」としてまとめたものを使用しており、長崎についてはこれ1冊で事足りるものとなっている。また、中身のレイアウトについても他地域のテキストのように教科書的なものとはせず、子供から大人まで読みやすいように写真などを多く取り入れた結果、かなり試験に取り組みやすいものとなった。

長崎検定は2009年現在までに4回の試験が行われており、総受験者数3,916人のうち、74%に当たる2,901人が合格している（図表4）。

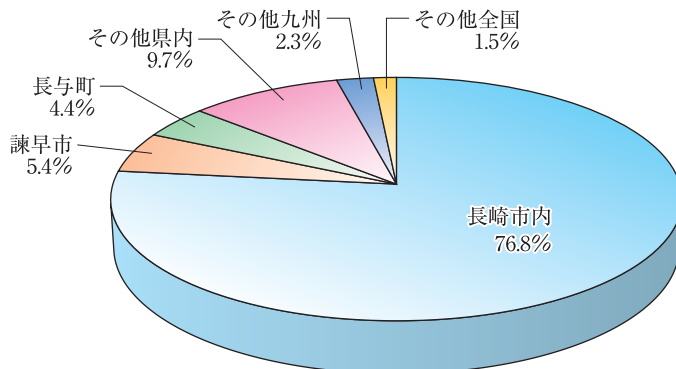
次に本検定の受験者を居住地別でみると、京都検定とは異なり長崎市民の受験者が7割以上を占めている（グラフ3）。

図表4 長崎検定の合格者数

検定ランク 検定実施年	1級	2級	3級	計
2006年（第1回）		431	1,174	1,605
2007年（第2回）		307	349	656
2008年（第3回）	9	164	207	380
2009年（第4回）	5	94	161	260
計	14	996	1,891	2,901

資料：長崎商工会議所の資料を基に当研究所にて作成

グラフ3 長崎検定受験者の居住地別割合（第2回試験）



資料：長崎検定検討委員会の資料を基に当研究所にて作成

（２）佐世保検定

2005年11月に第1回目の試験が行われた佐世保検定は、全国でも珍しい青年会議所が運営する長崎県内初のご当地検定である。佐世保市のことについて問う試験であるが、街の歴史・文化と切り離せないものとして旧帝国海軍や海上自衛隊、米軍に関するものも出題されている。

過去4回行われた試験では約750人の受験者が挑戦している。また、2007年に行われた3回目の試験からは、一般向けとは別に、中学生以下を対象とした「佐世保こども検定」を設けて、親子で楽しく受験できる検定試験となっている。

（３）ながよ検定

2008年8月に第1回目が行われたながよ検定は、西彼杵郡長与町教育委員会が町内の住民向けに運営しているご当地検定である。町民の脳の活性化や家族とのコミュニケーションの充実を目的としており、検定内容には「漢字」と「計算」の2種類がある。この点で、内容が主として地元の歴史や文化・特産物に関して出題される他のご当地検定とは異なっている。

本検定には小中学生を対象とする小中学生版と、その他町民用の町民版とがあり、過去2回の試験には142人の長与町民が挑戦している。

Ⅲ. 利活用と課題

1. ご当地検定の課題

ご当地検定のなかには、最初のうちは話題性もあり、地元マスコミにも採り上げられて大成功を納めるが、その後だんだんと尻すぼみになるものも少なくない。試験に対する人々の関心が高いうちはそこそこの受験者が集まるが、回を重ねるごとに減少していき、最悪の場合には休止に追い込まれるものも出てきている。そこで、行政が運営しているご当地検定はともかく、商工会議所などが運営しているものについては、赤字になると試験を継続していくことが困難となるので、今後も試験を安定して継続する運営能力や覚悟が求められている。

（１）受験者減少対策

人気を集めている京都検定や江戸文化歴史検定においても受験者は減少傾向にあるが、これは地域内の受験希望者が一通り合格してしまうと受験者が集まりにくいという、ご当地検定独特の傾向によるもので、試験実施機関はそれを織り込んだ制度の運営を考えておかなければならない。そのためには、人件費や試験会場使用料などといった諸経費を再度見直し、小規模でも運営可能な体制としておくことが肝要である。また、既に都市圏におけるサテライト試験会場を設けて、

地域外需要を掘り起こす活動を行っている所もある。

（２）他の試験との差別化

メインの検定試験に付随して専門ジャンルの試験をいくつか行い、検定自体の魅力アップを図ることや、合格者特典を更に充実させることなども他の試験と差別化する方法として考えられる。

（３）合格者の取り扱い

ご当地検定における最も大きな課題が、合格した人をどうするのかということである。難関を突破した後に何のメリットもないような試験では受験者側からみて魅力的なものとは映らず、合格者へのアフターフォローが大変重要なポイントとなってくる。例えば、合格者にはスキルアップのための専用勉強会が定期的に開催されることや、観光ガイドや講習会の講師のような活躍の場が設けられていることなども有効となる。

また、観光関連業を中心とした地元の一般企業において、社員のご当地検定合格がスキルアップとして社内で認められ、キャリア形成の一助として活用されるようになれば、試験のステータスも上がり一定の受験者数が見込めるようになるだろう。

このような、受験者と検定試験双方のメリットになるような仕組みづくりを行うことも大切である。

２．長崎検定の利活用に向けて

長崎検定が全国でも存在感のあるご当地検定となるためには、他のご当地検定との差別化を図り、魅力ある検定試験とならなければならない。

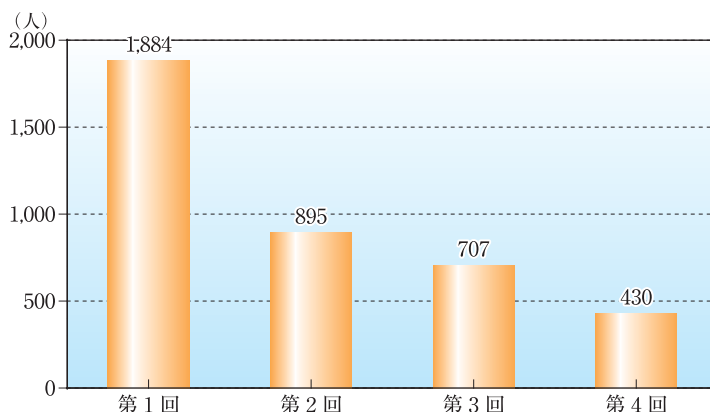
（１）課題

① 減少する受験者への対応

ご当地検定の受験者数は回を重ねるごとに減少する傾向が強いが、この点、長崎検定も例外ではない（グラフ４）。

受験者減少への対策として、長崎商工会議所はまず県外試験会場を東京に設置し都市部での需要を喚起すること、また、「幕末検定」や「長崎・龍馬検定」、「世界遺産検定」、「くんち検定」

グラフ４ 長崎検定受験者数



資料：長崎商工会議所の資料を基に当研究所にて作成

などといった地域資源を活かしたバラエティ豊かな検定試験を設けることなど、今後も受験者を飽きさせないような仕掛けを考えている。同会議所は、これまでも新聞社やTV・ラジオ局などといった地元マスコミ各社の協力を取り付けることに成功し、試験直前に百数十本ものCMが流れる仕組みを構築した実績もあり、今後も長崎検定を継続していく方針を明確に打ち出している。

また、地元企業との更なるタイアップを検討することも効果的であると思われる。京都検定では、例えば「京都検定号」と名付けられた広告電車を2カ月間にわたり運行、また書店における巨大広告やタクシー車両へのステッカー貼付、銀行ロビーでの広告動画放映、専用ホームページ（HP）における地元企業社員の受験体験の掲載などといった多岐に渡る積極的なプロモーション活動が行われて

いる。そこで、長崎検定でも試験をもっと地域内に浸透させるべく、電車やバスなどといった公共交通機関の協力を得ての広告、また試験対策用テキストブックを取り扱う書店においては、今までのように小型ポスターを掲示するだけに留まらない、店側の協力を得ての巨大広告ディスプレイの設置など、インパクトを与えるような活動に取り組むことも有効となろう。特にHP内に地元企業社員の受験体験欄を設けることについては、地元が一丸となって検定試験を支えていることをアピールできる効果的な手法の1つである。

今後、長崎検定を発展、継続していくためにも、これまで以上に本検定に賛同する地元企業を増やし、地域が全面バックアップしているご当地検定であるとの印象を内外に与えることができれば、受験者数の安定にも寄与することになるであろう。

[illegible]

企業も受験を奨励（資料提供：京都商工会議所）

② 学校との連携

京都検定においては、短期間ではあるが検定試験専用キャンパスの開講や1級合格者が研究員に採用されるなどといった地元大学との連携がみられ、これが他のご当地検定との差別化にもつながっている。長崎検定においても、地元の大学との連携を行うことは試験のステイタスを上げることにもなりうることから、検討の余地があるものと思われる。

また、地元の小・中学校、高校において地域を学ぶ授業の一環として長崎検定を活用してもらうことも考えられる。

③ 試験対策セミナーの充実

現在、1～3級試験全部において試験事前対策セミナーが開催されているが、1級用のセミナーについては、既に主催者側から受験資格がある2級合格者全員に対し、年間8回開催されるセミナーの案内DMが発送されており、確実なフォローが行われている。しかしながら試験直前に1回しか開かれていない2、3級用の対策セミナーは、その受講対象者が不特定多数であることから開催回数の増加も検討し、より多くのPRを行うことで、その存在を一般にまで広く浸透させ試験本番の受験者増に寄与するものとしなければならない。

また、現在の段階ではまだ用意されてない合格者へのブラッシュアップ研修を早急に設けることも必須であると思われる。

(2) 合格者の利活用

長崎検定は、観光関連業に従事している人のレベルアップまでは求めている京都検定とは異なり、地域文化の伝承や人材の育成とともに、ホテル従業員や観光ガイドなどに代表される観光業界全体のレベルアップにも寄与することを目的として創設されており、現在までの合格者2,901人を地域活性化のため積極的に活用していくことが期待される。

これからは、合格者に対して事後研修の案内を行うことはもちろん、各種イベントの事前案内やそれに伴う施設等への招待、またガイド募集の案内などといった細かいフォローを続けることで、長崎検定に合格して「長崎学」を身につけた人材との関係を末永く保つことが可能となる。検定試験を実施したらそれで終わりというご当地検定が多いなか、合格者へのアプローチを続けることで発掘した地域の人材を活用しやすくなり、長崎が他地域との差別化を図る上において大いに役に立つものと思われる。また、合格者にとっても自分は「長崎検定ホルダー」である、と自信を持って地域に率先して関わるきっかけともなろう。

特に1級合格者の14人は、その専門知識を活かしたマニア向けの観光ガイドとして期待できるほか、県内大学や歴史文化博物館と連携して共同研究を行うことや、企業や公民館などに「長崎学」の講師として派遣することも考えられるなど、市民協働のまちづくりを支える貴重な人材で

ある。加えて、県観光連盟や長崎国際観光コンベンション協会などとも連絡を密にすることにより、例えば、外国人観光客に対して、地域限定通訳案内士と組んでの「通」な長崎観光を提供することも夢ではない。更に、今後は長崎検定の試験問題の作成や採点への参加、試験対策セミナーやブラッシュアップ研修の講師を務めることなど、運営スタッフとしての活躍も望まれる。

このように、ご当地検定合格者の利活用に期待が集まるなか、京都では検定1級の合格者が中心となって2007年4月にNPO法人「京都観光文化を考える会・都草」が設立され、合格者はこの組織を中心に自ら京都の検定試験や観光を支える活動を積極的に展開しているが、ここ長崎でも検定1級合格者の会を設立し、観光ガイドや研修会・勉強会での講師役、また検定対策公式テキストブックの編集・検証作業などといった事業活動を行っていくことが検討されており、今後、その動向が注目されるところである。

第4回 長崎検定 PRチラシ

おわりに

地域の活性化には他との差別化、すなわちその土地のオリジナリティが重要とされているが、意外にもそこに暮らしている人ほど自分達が住んでいる地域の歴史や文化に対して疎い傾向にある。これからは、外客をもてなす力がある地域が生き残っていくものと考えられており、そうなるとその力を有する住民が多いところが有利となる。

その点、地元の知識を住民が学ぶ機会を設けて広く人材を発掘する『ご当地検定』は優れた地域振興の手段であり、1級合格者に代表されるような、特に地元の知識に秀でた住民の力をうまく利活用できるところが、今後も持続して活気に満ち溢れた地域となろう。

(杉本 士郎)